



2010 Formula Nippon DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING Race Report JAF GRAND PRIX 富士スプリントカップ

◆ 11月14日 (日) Rcae2 Final

#29 井口 卓人 9位

< 決勝レース 2 / 22 周 > 天候:曇り | コース状況:ドライ



スタートからアグレッシブなレースを展開、最後尾からの見事なポジションアップを見せるも、アクシデントに巻き込まれてしまった結果、14 位に終わった土曜のレース 1 から一夜明けた日曜。井口と DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING は、いよいよ今季最後のレースとなるレース 2 を迎えた。

レース 2 に先駆けてホームストレート上で行われたオープニングセレモニーでは、自衛隊の音楽隊に続いて各チームのドライバーとチームスタッフも行進しながら入場するなど、いつもとは異なり華やかな雰囲気サーキットに満ちる中、

DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING も井口とスタッフたちがスタンドのファンに手を振りながら笑顔で入場行進を行った。しかし、このセレモニーの終了直後、午後零時 30 分には F ニッポンのコースインが控えており、井口は終了後慌しく走行準備を整えてマシンに乗り込む。

フォーメーションラップを終えた午後零時 48 分、いよいよ DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING と井口にとっての今季最終戦がスタートした。周回数は昨日と同じ 22 周のスプリントだ。

昨日同様、15 番グリッドからスタートした井口は、アウト側のラインをトレースし、出遅れた大嶋和也、石浦宏明らをかかわし、1 コーナーでは 3 つほどポジションを上げたように見えたが、アウト側からのアプローチのため、コカコーラコーナーでは大嶋と競り合いながらも先行を許し、13 番手あたりに留まる。

1 周目を 13 番手で終えた井口だったが、2 周目に平中克幸をパスし 12 番手に浮上。さらに 3 周目にはセクター 3 で小暮卓史と接触したケイ・コッツォリーノがスピンアウト。労せずして井口は 11 番手となり、チームの期待通り序盤のうちにポジションを上げて行くことに。

大嶋に代わって前を行く小暮を追い、井口は猛プッシュ。4 周目に 1 分 27 秒 971 とすると、5 周目には 1 分 27 秒 589、6 周目には 1 分 27 秒 301 と好タイムを連発する井口だが、このあたりのポジションとなるとなかなか容易にポジションアップのチャンスは訪れず、やや膠着した展開となる。

しかし、「なんとか 1 台でも多く抜いてチェッカーを……！」とチャンスを伺っていた井口の目前に、9 周目に前でバトルを展開していた小暮らにかわされた松田次生のマシンが現れる。他車とのバトルのためセクター 3 でペースの落ちた松田のスリップを奪った井口は、この千載一遇のチャンスを逃さずオーバーテイクシステムを使用。それを知らせるロールバーのランプを点滅させながら、ホームストレートで松田に並び掛けた井口は、見事 1 コーナーでこれを攻略。トップ 10 へと進出することに。

ここからさらに前に行く小暮を追いながら、周回を重ねた井口は松田をじりじりと引き離しながらチェッカーを目指す。14 周目には自己ベストとなる 1 分 27 秒 217 にまでペースアップした井口だったが、小暮のペースはそれを上回り、ギャップは思うように縮まらない。

このまま 10 位フィニッシュかと思われたものの、レース後半の 17 周目、序盤のコツォリーノとの接触について小暮にドライブスルーペナルティーが科せられることに。18 周目にこのペナルティーを消化するため、小暮がピットインしたことで井口は自動的に 9 番手に浮上。8 位の大嶋を最後まで追った井口だったが、残り少ない周回ではそれ以上のポジションアップは果たせず、そのまま 9 位でフィニッシュを迎えたのだった。

最高峰 F ニッポンでの厳しいルーキーイヤーを DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING とともに戦った井口だったが、この日は着実なレース運びで最後尾からシングルフィニッシュを勝ち獲るなど、1 年間を終えての成長を感じさせるに十分な今季最後のレースとなった。

ドライバー／#29 井口 卓人

「予選順位が 15 番手だったので、とにかく 1 台でも多く抜こうと思ってスタートしました。昨日は調子が良かったのにあのような不運な結果に終わってしまい今日は絶対に完走しようと思っていたので、無事に最後までプッシュして走れたということは良かったのですが、ちょっと昨日よりはペースが悪かったのが反省点です。少し序盤のうちにダスティな部分を走ったこともあり、リヤタイヤの消耗が早かったんです。今季最後のレースでスタートでポジションを上げることも出来ましたし、流れの中でオーバーテイクすることも出来ました。結果という部分では納得していませんが、良い走りが出来たのではないかと思います。冷静に目前のクラッシュを避けることもできましたし、ホンネを言えばシリーズ戦でのポイント圏内の 8 位以上でフィニッシュしたかったのですが、9 位ということでまずまずだったのではないのでしょうか」



スーパーバイザー／立川 祐路

「昨日良かっただけに、もう少し行って欲しかった気持ちもありますが、最後のレースをうまくまとめてシングル完走してくれて良かったと思いますし、良く頑張ってくれたと思います。最終戦から昨日まで、なかなか流れが良くないレースが続いた中で、思うように行かず井口にとってもつたいない状況もありましたが、今シーズンの開幕の頃とは比べ物にならないくらい井口も成長したと思いますし、最後まで良い走りをしていたと思います。今シーズンを経験を活かし、さらに来季以降も頑張ってもらいたいですね」